

令和7年度第1回南砺市総合教育会議 議事録（要点記録）

1 日 時 令和7年5月20日（火）午後1時30分～午後3時00分

2 場 所

南砺市役所 構成員	南 砺 市 長	田中 幹夫	教 育 長	松本 謙一	
本館302会	教育長職務代理者	中川 日登美	教育委員	藤原 洋	
議室	教育委員	江川 由貴子	教育委員	浦井 啓子	
3 出席者	事務局	総合政策部長	山田 智紀	教育部長	氏家 智伸
		総合政策部次長政策推進課長	亀田 秀一	地域包括ケア部次長医療課長	松岩 健志
		教育部次長教育総務課長	上野 容男	生涯学習スポーツ課長	山下 真人
		こども課長	山田 千佳子	文化・世界遺産課長	野村 信晴
		教育総務課副参事	山本 佳和	教育総務課主幹	小谷 篤史
		教育総務課主幹	佐藤 聖子	医療課主任	重原 智恵
		教育総務課主事	永井 麻由子		

4 傍聴者 報道2社

5 会議の概要

（1）開会あいさつ（田中市長）

令和7年度第1回南砺市総合教育会議の開催にあたり、教育委員の皆さまには大変ご多忙の中
ご出席いただき誠にありがとうございます。また、日ごろから南砺市の教育情勢の運営について
ご助言、お力添えを賜っておりますことを心から感謝申し上げます。

本日は、まず最初に昨年度改定を進めてまいりました、南砺市総合計画後期まちづくりプラン
について、主な変更点である、後期まちづくりプラン5年間の重点事項の追加、将来目標人口の
見直し、政策・施策の追加・修正を中心にご説明いたします。次に南砺平高校の全国募集状況に
ついて概要のご説明、青池学園の開校以降の状況についてご説明いたします。4つ目の事項とし
て、災害時の子どもの心のケア研修会についてご説明いたします。災害によって子どもが受ける
精神的ダメージの対応についての研修会のご案内となります。最後に、昨年度実施した教育フェ
スティバルの実施報告および今年度実施予定の生涯学習フェスの予定についてのご案内という流
れで進めさせていただきます。昨年教育フェスティバルは市誕生20年企画イベントとして教育
に係る様々な催しを実施し、約1,000人の来場者にお越しいただきました。たくさんの市民の皆
さまに児童生徒の成長や関連団体の取り組みをご覧いただくことができました。今年度は生涯学
習フェスとして装いを新たに企画していきたいと考えております。

教育委員および関係部署の皆さまには各事項にかかる課題、進むべき方向について率直なご意
見を賜り、南砺市教育振興基本計画の基本理念である「未来を切り開くなんとの人づくり」に繋
げていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(2) 協議事項

① 南砺市総合計画改定（後期まちづくりプラン策定）について

○教 育 委 員 社人研は 2060 年時点の南砺市の人口を約 2 万人と推計しており、市は努力目標として約 2 万 5 千人としている。たくさん子どもたちが生まれてくることを前提に学校の再編を考えていっても、万が一努力目標が達成できなかった場合、どこで修正、後戻りができるのか知りたい。

○事 務 局 人口の統計・推計は外さないと聞いている。社人研の推計も、何もしなければ表のように推移していくことは確からしいということが所説となっている。逆に言うと、そこから人口を増加できるかどうかは努力次第であり、目標人口に近づける動きを考えていきたいと考えている。今後見直す機会があるかについては今回の総合計画は後期 5 年間の目標となるので、次の総合計画を立てる際には改めて委員のご意見をいただきながら計画の見直し、検討をさせていただきたい。

○教 育 委 員 部活動の地域移行や学校のあり方検討委員会は 2020 年の子どもの出生数をベースに考えている。2020 年は 300 人弱の出生数だったと記憶しているが、いま現在はそこからさらに人口が減少している。将来を見越して様々な対応ができるように取り組んでいただきたい。

○事 務 局 学校のあり方検討については今現在生まれた子どもたちの実数を元に考えている。各地域ごとの児童生徒数を出し、どの学校に何人入るか、統合後の学校は何人になるか検討している。現在生まれている 0 才児からの実数を使用しているの、社人研の推測の数値は学校のあり方検討委員会では使用していない。社人研の推計はまだ生まれていない子どもたちの人数が今後どのように推移するかの参考にはなると考えられる。

○市 長 出生数や移住定住を増やすために総合計画を作成しており、確率の高い社人研のデータを使用している。目標によってデータを使い分けているということにご理解いただきたい。

○教 育 委 員 35 ページの南砺市型「ネウボラ」推進事業とはどのようなことを指すのか教えていただきたい。

○市 長 ネウボラという言葉は十数年前から使用しているが、フィンランドの言葉であり、子どもが生まれる前の妊娠時から 18 歳になるまでの間の継続した子育て支援のことを意味している。妊娠、出産、保育、小中高校と切れ間なく支援するという意味でこの言葉を使用している。

○教 育 委 員 子どもの居場所について、教育委員会の中でも中高生の居場所が少ないという課題がある。先日地域のアンケートがあり、その回答の中に 10 代の子どもの意見で、市が関わるような児童館や公民館ではなく、民間のカフェのような場所がほしいというものがあった。すべて無料で市が居場所を提供するのではなく、民間の施設の誘致も含めて考えたらよいのではないかと考える。

また、定年延長に伴い祖父母が就労中の家庭が多くなり、日中子ども

の世話を見ることが難しくなっている。父母だけでなく、祖父母に対しても子どもの面倒を見るための手当や支援があれば良いのではないかと考える。

○事 務 局 居場所づくりについて委員のおっしゃる通り、市が提供する居場所しか考えていなかった。他の子どもたちがどのような意見を持っているのか確認し、取り組んでいきたい。

祖父母への支援について、市の保育施設には延長保育の制度もあるので父母、祖父母の負担にならないような対応はできていると考えている。子どもが万が一の時に祖父母が休みやすいような制度の確保については今後企業に啓発していけたらと考える。

○市 長 子どもの居場所に Wi-fi を導入するといった事業がなかったか。

○事 務 局 児童館に Wi-fi を導入することになっている。

○市 長 高校生も利用しやすい環境を作してほしい。

砺波市にマクドナルドができたときにイートインスペースが子どもたちのたまり場になったらどうするのか、外から見やすいデザインにしてほしいというような今の子どもの意見とは逆の意見が多く出た。喫茶店等に高校生がたまったらどのような影響が出るのか、店にしっかりと確認をとるべきである。例えばアスモの喫茶店などは回りの目が行き届くのでそういった場所が良いのではないかと。子どもたちの意見と店への確認と別に考えて取り組むべきである。

○教 育 委 員 KPI がそれぞれ設定されていると思うが、これは 10 年間継続している数値で、5 年ごとの見直しはされていないものか。

シティプロモーションに関する事項を追加したとお聞きしたが、全体を通して若者にどのように南砺市のことを知ってもらおうかということが重要だと感じる。ここがうまく機能しないと、届けたい人に届かないということになりかねない。自分にも高校生と大学生の子どもがいるが、子どもたちが本当に市が発信する情報を受け取れる仕組みになっているか考えると、市はさらに努力する必要があると感じられる。具体的にどのようなことをされるかお聞きしたい。

○事 務 局 KPI については継続的に見ていく必要があるので、変わらないよう、一貫したもので設定しているが、時代の流れに応じてさらにふさわしい指標が必要ではないかということもあり、変更したものもある。5 年間はそのまま進めたいと考えている。

シティプロモーションに関しては市の情報発信として、南砺市公式ラインがあり、最近リニューアルされ使いやすくなった。小中学生や保護者のアンケートを見ると、南砺市が発信する情報を見るか、という内容の質問に対してほとんど見ていないということが確認されている。現在、市は SNS チームを作り動画を定期的に発信しており、徐々に多くの方に見てもらえるようになってきている。若い世代が使用するメディ

○市

ア、SNS によって情報の発信の方法を変えていく必要があると考える。
長 情報の発信の仕方は非常に難しいが、プロジェクトチームやプロモーションの計画を立てながらさらに発信力を強めていきたい。インフルエンサーなど情報発信についてノウハウのある人から勉強しながら市の情報発信に取り組んでいこうという思いである。今後プレイアースパークについて積極的に発信していくが、ゴールドウィンの発信も紐づけて市の街づくりについてさらに発信力を高めたい。

どこかで起爆剤がないと人口増加は非常に難しい課題である。例えばプレイアースパークをオープンするときに多くの従業員が必要となるが、南砺市に来ていただいて、実際南砺市に暮らそうと思ってもらえるかが重要となる。新たな事業をおこすたびに移住者が増えるということが理想であり、その取り組みや成果が目に見えるようにしてほしいと職員に呼びかけている。このような積み重ねが 5 年後 10 年後の消滅可能性自治体脱却につながると考えている。

南砺市は子育てや教育に非常に力を入れているが、その強みを移住・定住につなげられていないのはやはり発信力のなさによると思われる。情報発信についてぜひ皆さまのご指導をいただきたい。

② 南砺平高校の全国募集状況について

○教 育 委 員 県外から進学したお子さんたちの志望動機はどのようなものがあるか。

○事 務 局 一つは自然の豊かさである。県外生が全員都会の出身というわけではないが、他にも平高校の部活動や学校の活動の発表をみて魅力を感じて志望されたようである。また、全国募集という制度自体に興味があり、自然豊かな、違った環境で成長したいという思いが動機となっている例もある。お子さんが志望したか、親御さんが志望したか明らかではない。

○市 長 学校現場ではどこの高校を志望するかは大体何月ごろに決まるのか。

○教 育 委 員 志望する高校による。部活動関係だと 2 年生くらいから声がかかることがある。

○市 長 やはり 2 年前くらいから計画的に募集数を決めておかないと、大事な人生を決めるときに判断が遅くなってしまう。来年どうなるかわからないというようなスケジュールで進めるのはどうかと感じている。2 年先の見通しをもって動いているというアピールをしていかないと、募集をする気がないのではないかという不信感につながってしまうのではないか。理想は、進路を決める 3 年生になる前に情報発信をすることだと県には訴えている。県外流出する高校生が多い富山県の中で、県外から生徒を呼び込む動きをしているのは平高校と青池学園の 2 校のみであり、県からは頑張してほしいという声をもらった。できるだけ早めに情報を流せるように、来年、再来年以降のことも含めて取り組まなければ

ならない。市も2年後、3年後のことを考えてスピード感をもって下宿先の確保に取り組んでいきたい。

○教 育 委 員 高校の募集について、オープンハイスクールは行っているのか。オープンハイスクールに参加し、実際学校の様子を見たり高校生と交流したりすることは、進学先を悩んでいる生徒にとって大変重要な体験であり、平高校としても進学したいと思ってくれる生徒が増えることにつながると感じる。

○事 務 局 県で行っているオープンハイスクールに県外の生徒も参加している。親御さんとしても子どもがどんな所に住むことになるのか心配事が多いと思われるが、オープンハイスクールの際に平高校の寮を見てもらい、安心感を持ってもらえるよう取り組んでいる。

③ 青池学園（通信制高校）開校以降の状況について

○教 育 委 員 野球部の生徒たちがグラウンドでナイター練習をしていると思うが、バックネットは以前のもののままなのか。バックネットの西側に木が植えてあるが、枝の伐採は考えているか。

○事 務 局 新しいものを5月から使用している。木の伐採については状況を確認し、近隣住民の迷惑になるようなら対処する。

④ 「災害時のこどものこころのケア研修会」について

○教 育 委 員 子どもを見守る立場の人に向けた研修でとても良い企画だと感じる。様々な相談事が市や関係機関に集まるが、南砺市は特に親切で、相談者に対策や使用できる支援について説明してもらえる。最近家庭内での不幸なニュースが多く、家庭の力をあげていかなければと感じているが、親御さん向けの研修があるとよいのではないかと考える。保育士は研修を受け一生懸命取り組んでいるが、やればやるほど周囲から期待されたり頼られたりして業務過多になってしまう。家庭内で対応できるような研修会も少しずつでも広まっていけばよいと感じた。

○事 務 局 今回の研修は3年の連続した計画になっており、昨年是一般の方向けの研修会として開催した。今回の研修は、講師の先生の助言に従い、実際に子どもをあずかっている保育士や教員を対象とし、子どもの心のケアの考え方を学んでもらおうと企画している。今年度は2回目も予定しており、2回目の研修会では一般の方々向けの研修を予定している。親御さんや地域の方々のレベルをあげながら災害時の対処について身につけていきたいと考えている。

○市 長 能登半島地震の後、こどものえがおクリニックの先生方もかなり動員されて子どもの心のケアについて取り組んでこられた。南砺市の場合、研修会を開催し、最終的には災害時の子どもの心のケアについてある程度の方向性のとりまとめもしくは計画を作っていきたいと考えている。

⑤ 令和 6 年度教育フェスティバル実施報告及び令和 7 年度なんと生涯学習フェスの実施について

○市 長 今までの「市長への提言」は学校の代表者が市長に対してのみ発表するクローズなもので、せっかく学んだことが広くいろいろな方に行き渡っていなかった。教育フェスでは 1,000 人来場されたということは一箇所で発表することで来場者にとっても集まりやすく、よりよい発表の形なのではないかと考える。

(3) その他

○教 育 委 員 誰ひとり見捨てないというスタンスで事業を進めておられるが、今日の資料を見ると、若者や子どもにフォーカスされたもののように感じる。保育園の待機児童のように、高齢者の施設入所待機も取り上げるなど、両面に注目したらよいのではないか。南砺市総合計画の中には高齢者のことがあまり目立たないように感じたが、何か意図はあったのか。

○事 務 局 9 ページの総合計画と個別計画のイメージを見ていただきたい。委員のおっしゃった高齢者向けのプランは個別計画で対応することになっている。今回後期計画として抜き出したのはその中の人口対策のプランである。個別計画の中には高齢者、障害者等様々なかたを対象とした計画もあり、その中で対応している。

○市 長 高齢者に対する政策や事業は実際はかなりの事業量がある。従来の総合計画の考え方自体が数年前に大きく変更し、計画中にすべての事業を盛り込まなければならないという考え方はなくなった。地方創生が始まり 10 年が経過する前に総合戦略を作ろうとなったときからの絞って集中的に事業をすることに決定し、時代の流れに沿って若者世代にフォーカスしたものになっている。事業としては環境、農業、工業、福祉など、さらに深い計画が多くあるのでそれに基づいてひとつひとつしっかりと取り組んでいる。その全体を説明するとボリュームのあるものになってしまうため、今回の南砺市総合計画では人口の部分が一番強く打ち出していることにご理解いただきたい。

○教 育 委 員 外国人住民のかたが増えているが、地域の中で外国人のかたがうまくとけ込めないという問題があるように思う。学校現場でも外国人の子どもで日本語が得意でない児童生徒への対応がどのようになっているのか気になる。市は異宗派の市民も増えている現状を認識しているか、今後も増えていくであろうことについてどのようにどうお考えか知りたい。地域の中でも外国人人口が増えていることに市民はあまり実感をもっていないように感じる。増えているように感じるが、交流がないため感じ取れないなど、人数の把握ができていないように思う。市の政策もそこまで手が行き届いていないのではないか。外国人住民も子どもから大人まで様々な場面で計画に関係してくると思うがこの総合計画の中

には組み込まれているのか。

○事 務 局 令和5年に行った外国人住民を対象としたアンケート調査では、日常生活で問題になっていることはないという結果となった。ただし、アンケートが自分にとって有益なものと感じられない、市からの声かけが難しい等の理由で回答数は多くない。災害時の対応や学校現場での対応は難しいものがあると思われるが、今のところ市は日本語教育の場の提供に取り組んでいる。

○市 長 これからも外国人人口は増えていくと思われる。日本人が外国人を受け入れる体制をどう作っていくかは今後の課題である。個々の外国人の対応より、企業との情報共有を呼びかけているところである。ただし、地域の中のことを考えたときに、防災に関するやり取りを行う場合は地域づくり協議会の対応となるため、市は地域への外国人対応への呼びかけは行っているが、すべての地域で対応できているとは言えない状況である。教育面について、現在、南砺市は通訳をつけて外国人の児童生徒への対応を行っている。以前、小学校6年生の児童だが能力面を考慮し小学校1年生として在籍したいというような要望がでたが、それに応じることが可能かどうかという議論があった。

○教 育 委 員 海外の学校は9月始まりのところが多いので、その子どもが日本に転入したときに下の学年に入れるか上の学年に入れるかということで議論があった。結局、義務教育で補助金などお金が関わってくることもあり年齢相当の学年に振り分けられた。

○市 長 能力相当の学年に所属させることが本人や周囲にとって良いというのはわかるが、行政としては簡単に認めることが難しい現状である。

○事 務 局 日本語教室の話に戻るが、有償にすると受講しようとする人が減ってしまう。アプリ上で無償で日本語でのやり取りができるため、日本語を流暢に話すレベルまでは求めない外国人も多い。

○市 長 企業としては外国人に頼らざるを得ないので、職場の環境も考えていかなければならない。労働者として日本に来ているのではなく、一緒に働く仲間として日本で学び、国に戻ったときに技術を発揮できるというようなウィンウィンの関係でいられるような社会にしたいと考えている。

(3) 閉会あいさつ（教育長）

本日は市長部局と教育委員会の意見交換をいたしました。市の行政があってこそその教育委員会であります。市の計画を実現するうえで役に立てるように教育委員会でも取り組んでいきたいと考えております。教育行政そのものは子どもたちや市民にとって独立した面もあります。本日この場でお互いのことを理解しあって今後の教育行政、市長部局の取り組みにも活かしていけたらと思います。今後も教育委員会は市長の指導のもと、いろいろなことに挑戦していきたいと考えております。教育委員の皆さまも本日はありがとうございました。